

## 第2回子育て・教育部会 主な意見

### 《学校再編について》

#### ●小中一貫校への懸念

- ・上級生の影響が早くから子どもに及ぶことへの不安もある。先生が子どもへ寄り添う配慮・サポートの充実が必要
- ・子どもが9年間同じ学校に行くことで、(いじめ等)何か問題が起きるのではないか

#### ●小中一貫校に感じるメリット

- ・人数が多くて個性がたくさんある方が楽しいし、人間形成にとっても大きい
- ・そのような経験をさせるために、大きな学校に入れたほうが良いと思う親も多いと思う
- ・子どもにとって異なる価値観を知り融合していく機会というのは良い勉強。ただ、価値観を融合していくために、教員に求められる技量は大きい

#### ●学校再編に向けた考え

- ・新しい学校をどういう学校にしたいか、前向きな議論が出来たら良いと思う
- ・和泉市のモデルとなるような、みんなが夢を持てるような学校を目指したい
- ・地域の人たちが入り込み多世代交流が盛んな学校が作れないか
- ・当事者である生徒・保護者が義務教育校に関心を持ち、乗り気になってもらうアプローチも必要ではないか

#### ●その他

- ・義務教育学校になっても教員の加配制度は適用されるのか。適用される場合、現状の数に上乗せされるのか知りたい。

### 《子育て環境について》

#### ●子どもや親が関係を作れる地域の居場所について

- ・学校だけでは心を開きにくい親もいる。気軽に話せる場が求められていると思う
- ・相談に来ること自体を目的にするのはなく、普段気軽に立ち寄れる場があると良い
- ・地域に特徴ある居場所を増やして、子どもが自分の居場所を複数から選べるのが大事

#### ●その他

- ・幸校区に三世代住み続けている人は珍しくなっている。一人暮らしの高齢者が多い
- ・地域の人と親子の関係性を作り、会えばあいさつし合うのが当たり前の状況に変えたい
- ・和泉第一団地の前にある JR 阪和線の踏切は、小学校低学年にとって危険で対策が必要
- ・校区設定を新たにどうするか、別の機会に考えたほうが良い

## 第3回子育て・教育部会 主な意見

### 《南松尾はつが野学園について》

Q. 5年生から9年生まで一緒に部活動をしているというのはどういうことか

⇒5年生から、放課後の部活動に任意で参加できる仕組みにしている、ということ

Q. 小学校と中学校、一緒の内容で行うことが難しい行事はどのように取り組むのか

⇒発達段階に応じたイベントを各学校で9年間を見据えて設定している

Q. 前期課程と後期課程の授業時間の差で、小学生が学校に拘束される時間は長くなるのか

⇒中休みや昼休みを少なくする等の調整により、帰宅時間は現在とそれほど変わらない

Q. 全校生徒が集まれる場所は、校庭と体育館以外にあるか

⇒全校生徒が集まれる場所は校庭と体育館。学年単位で集まれる多目的ルームはある

Q. 市外からまちに転入してきて入学している生徒は多いのか

⇒南松尾はつが野学園への入学を目的とした転入者は多い。南松尾はつが野学園に通うためにはどこに住めばよいか、という問い合わせが来ることもある。

### 《学校再編について》

#### ●小中一貫校化することのデメリット・懸念

- ・子どもにとって組体操や騎馬戦等やりがいのあるイベントが半減してしまう
- ・子どもが関わるコミュニティが限られてしまう。元々富秋中学校の生徒は内にこもりがちなので、小中一貫校化すると、なおさらこもりがちになるのではないかと
- ・小中一貫校化した後しばらくは、少ない児童数に対して施設が大きく、ソフト面を担う教員の負担が大きいのではないかと

#### ●小中学校再編後の学校利用について

- ・今の指定避難先よりも距離が遠くなる等、場合により残った学校の使い方も考えるべき
- ・小学校を避難場所として利用するかの前に、本来は避難所となる自治会館等が適正に配置されていないといけない

#### ●その他

- ・富秋中学校区でも何か画期的なことを行い、市外からも通うことができる「特認校」としてはどうか

⇒南横山小学校は地域で考える会をつくり、勉強した上で市へ要望があった。富秋中学校区も地域で他の地域の子どもを受け入れて育ててあげるといった環境を整えればあり得るかもしれない(市)

- ・将来の話の前にまずは今の話を議論すべき。将来のまちづくりの為に資金を貯めておき、今の学校に必要な設備(クーラー等)の設置をしないという方針であれば小中一貫校化には反対

⇒そのような方針はない。小学校のなるべく早いクーラー設置に向けて、現在設計に着手中である。(市)